

年間授業計画

教科:(公民)科目:(現代社会) 対象:(第3学年機械科1組~設備工業科) 2単位 教科書:最新現代社会(実教出版)

教科担当者:石井(機械科1組:㊟)(機械科2組:㊟)(電気科:㊟)(建築科:㊟)(設備工業科:㊟)

1年間の計画を確認した後押印

教科	教務	副校長	校長

	指導内容 【年間授業計画】	科目現代社会の具体的な指導目標 (自校のスタンダード) 【年間授業計画】	評価の観点等	時 予 数 定
4 月	現代社会の諸課題 ※感染症の措置により、授業を行うことができないため、自宅学習課題等に対応する。	現代社会における諸課題を扱う中で、社会の在り方を考察する基盤として、幸福、正義、公正などについて理解させるとともに、現代社会に対する関心を高め、いかに生きるかを主体的に考察することの大切さを自覚させる。 ※感染症の措置により、授業を行うことができないため、自宅学習課題等に対応する。	「幸福、正義、公正」などの考え方が、現代社会の諸課題を考察するための基盤であることを説明できる。例えば、生命・情報・環境の問題では、時としてそれぞれの幸福の対立が生じることを理解し、その課題を調整する際に正義や公正の観点を踏まえて考察できる。	6
5 月	現代の社会生活と自己実現	現代社会について、倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際社会など多様な角度から理解させるとともに、自己とのかかわりに着目して、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について考察させる。	現代の青年期の意義と具体的な現象について理解する。青年期はモトリアムと呼ばれ、社会的な義務や責任が猶予されていること、現代社会においてはこのモトリアムが延長してきていることなどを、社会的な背景や自らの経験などから説明できる。また、防衛機制について、具体的な事例を挙げて説明できる。	8
6 月	現代の社会生活と自己実現	個人の尊重を基礎として、国民の権利の保障、法の支配と法や規範の意義及び役割、司法制度の在り方について日本国憲法と関連させながら理解を深めさせるとともに、生命の尊重、自由・権利と責任・義務、人間の尊厳と平等などについて考察させ、他者と共に生きる倫理について自覚を深めさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本国憲法に基づいて、基本的人権が永久不可侵の権利であることを理解し、明治憲法下における法律の留保規定と比較しながら、国家権力による人権不可侵の原則を説明できる。</li> <li>法の支配とは、為政者による恣意的支配を排除し、合理的な議論に基づく統治を目指すものであることを理解し、法の支配と法治主義の違いを歴史的事実を踏まえて説明できる。</li> <li>国民の権利を守り社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障が必要であることや、公正な裁判のためには司法権の独立が不可欠であることを説明できる。また、現行の司法制度改革における議論の内容と現状について、社会的背景を踏まえて説明できる。</li> </ul>	8
7 月	期末考査		一学期の内容がきちんと定着しているかどうかを確認する	4

	指導内容 【年間授業計画】	科目現代社会の具体的な指導目標 (自校のスタンダード) 【年間授業計画】	評価の観点等	時予 数定
9月	現代の社会生活と自己実現	現代の経済社会の変容などに触れながら、市場経済の機能と限界、政府の役割と財政・租税、金融について理解を深めさせ、経済成長や景気変動と国民福祉の向上の関連について考察させる。また、雇用、労働問題、社会保障について理解を深めさせるとともに、個人や企業の経済活動における役割と責任について考察させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業構造の変化や経済のグローバル化を通じて、戦後の資本主義経済がどのように変容してきたかについて、世界経済の動向を踏まえて説明できる。</li> <li>市場における価格メカニズムについて、需要曲線と供給曲線のグラフを活用して説明できる。プライスリーダーや価格の下方硬直性などの言葉を使用して「市場の失敗」を理論的に説明できる。</li> <li>ビルト・イン・スタビライザーやフィスカルポリシーなど、財政に関する理論を理解するとともに、日本の財政の現状について、財政健全化の必要性を踏まえて説明できる。</li> </ul>	8
10月	現代の社会生活と自己実現	現代の経済社会の変容などに触れながら、最新の市場に関する考察、市場経済の機能と限界、政府の役割と財政・租税、金融について理解を深めさせ、経済成長や景気変動と国民福祉の向上の関連について考察させる。また、雇用、労働問題、社会保障の諸問題などについて理解を深めさせるとともに、個人や企業の経済活動における役割と責任について考察させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代における金融の自由化やグローバル市場の発展について、先進国経済の動向を踏まえて説明できる。また、日本の金融の特徴について、他の先進国と比較しながら説明できる。</li> <li>現在の我が国において、景気浮揚を図るために政府が行う経済政策について、具体例を示して説明できる。</li> <li>少子高齢社会における雇用・労働問題について、経済社会の動向を踏まえ、ワーク・ライフ・バランスやワーク・シェアリングなどの考え方にも言及して説明できる。</li> <li>日本の社会保障制度が抱える様々な課題について理解する。特に、少子高齢化に伴う社会保障給付費の増加と現役世代による負担の拡大が避けられない中で、制度の持続可能性が大きな課題となっていることについて説明できる。</li> </ul>	8
11月	国際社会の動向と日本の果たす役割	グローバル化が進展する国際社会における政治や経済の動向に触れながら、人権、国家主権、領土に関する国際法の意義、人種・民族問題、核兵器と軍縮問題、我が国の安全保障と防衛及び国際貢献、経済における相互依存関係の深まり、地域的経済統合、南北問題など国際社会における貧困や格差について理解させ、国際平和、国際協力や国際協調を推進する上での国際的な組織の役割について認識させるとともに、国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方について考察させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>冷戦終結後の急速なグローバル化の進展について歴史的背景を踏まえて考察し、グローバル化のもたらす諸課題について説明できる。</li> <li>人権に関する国際的な宣言や規約等の成立、国際法による国家主権の制限の意義、我が国固有の領土をめぐる問題に対する我が国の正当な立場と平和的解決の重要性などについて説明できる。</li> <li>人権、国家主権、領土などに関する現在の国際的な課題と背景について理解するとともに、その解決に向けた国際的な取組について具体例を挙げて説明できる。</li> </ul>	6
12月	期末考査		二学期の内容がきちんと定着しているかどうかを確認する	4

	指導内容 【年間授業計画】	科目現代社会の具体的な指導目標 (自校のスタンダード) 【年間授業計画】	評価の観点等	時予 数定
1 月	共に生きる社会の形成を目指して	持続可能な社会の形成に参画するという観点から課題を探究する活動を通して、現代社会に対する理解を深めさせるとともに、現代に生きる人間としての在り方生き方について考察を深めさせる。	持続可能な社会の形成に主体的に参画する意欲をもち、現代社会の諸課題を多面的・多角的に考察し、課題を探究できる。例えば、「現役世代と将来世代の関係」に着目し、現役世代が物質的な豊かさや社会保障の充実などを求めることが将来世代の負担につながりかねないことを自分の言葉で表現できる。	6
2 月	一年間のまとめ・学年末考査		一年間の学習活動を総括していく	2
3 月				